

# 空港制限区域内におけるターミナル間連絡バスの 複数台遠隔型自動運転（レベル4相当）に向けた実証

<b>実施体制</b> <small>(下線：代表機関)</small>	東日本電信電話(株)、成田国際空港(株)、KDDI(株)、(株)ティアフォー	<b>実施地域</b>	千葉県成田市 (成田国際空港)
<b>実証概要</b>	少子高齢化を背景として、移動・物流サービスにおける <b>将来的なドライバ人材不足</b> が予想され、国際空港では航空機の発着枠に応じた <b>柔軟な受け入れ態勢（例：ターミナル間連絡バスのドライバ）</b> の確保が <b>将来困難になる</b> という課題が存在。 ➤ 空港制限区域内にローカル5G環境を構築し、3つの旅客ターミナル間の自動運転、複数台の遠隔監視映像配信、代替ルートを想定したキャリア通信・ローカル5G切替動作等、 <b>遠隔型自動運転（レベル4*相当）</b> に向けた <b>実証</b> を実施。 ➤ 自動運転技術の導入を通じ、将来の空港における地上支援業務等の <b>効率化、省人化、車両事故低減</b> を実現。		
<b>技術実証</b>	➤ 空港という特殊な環境における、 <b>航空機、ボーディングブリッジ等の影響を考慮</b> した電波伝搬モデルの精緻化を実施。 ➤ 周波数：4.8-4.9GHz帯（100MHz） 構成：SA方式 利用環境：屋外		

\* 車両開発事業者、運行事業者、空港管理者等の関係者間で合意した限定領域（ODD）を前提として、運転者が介在せずに対応可能なシステム。

## 1) 3つの旅客ターミナル間の自動運転の検証



## 2) 複数台の同時運行に向けた遠隔監視・映像配信の検証



## 3) 代替ルートを想定したキャリア通信・ローカル5G切替動作の検証



## 遠隔型自動運転システム

